動き始めた水害対策

東日本台風から１年

昨年10月に東日本を中心に甚大な被害をもたらした「令和元年東日本台風」から今月で1年。鏡石町では、阿武隈川沿いに位置する成田地区で堤防決壊により河川の水が流れ込み、家屋や農機具の浸水、農地への土砂流入など、地域住民が大きな打撃を受けました。今月号では、現在の成田地区を取り巻く課題について考えるとともに、町としての今後の取り組み、昨年の台風を経験した成田地区の方々のお話を紹介します。

堤防決壊で浸水した成田地区（令和元年10月13日撮影）

成田地区は、南北に走る県道須賀川矢吹線を境として、阿武隈川に接する県道東側の河原地区に農地が広がり、県道の西側には住宅地が位置する農業が盛んな地域です。

昨年の東日本台風では、成田地区を囲む阿武隈川、鈴川の堤防決壊により、河原地区の農地全域、旧地名・宿屋敷と呼ばれる地域の81世帯が浸水しました。

成田地区では過去にも河川の増水による浸水被害を受けており、堤防の強化等による治水対策が喫緊の課題となっているほか、農地や農業施設が被災した農家の生活再建、水害による人口減少とそれに伴う地域のコミュニティの維持、今後発生しうる台風等の災害を見据えた避難方法や避難所のあり方などの課題も山積しており、町だけでなく、国や県も一体となった対策が求められています。

安心安全な居住環境を

東日本台風による水害を踏まえ、国は今年1月に「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」として、阿武隈川の本川と支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった、総合的な防災、減災対策を令和元年度から10年間の計画で進めることを発表しました。

このプロジェクトの中で、阿武隈川の乙字大橋からうつくしま大橋（あぶくま高原道路）までの約5・7㎞が国の直轄区間（国管理）となり、鏡石町・玉川村・矢吹町の3町村が遊水地群の整備エリアとして位置付けされました。

遊水地は、河川に沿った地域で一時的に水を貯めて下流域の水位を下げ、居住地の洪水被害を防止するための設備となりますが、事業実施については、国の意向と成田地区の意向をそれぞれ精査する必要があることから、町では関係課職員からなる「鏡石町阿武隈川上流緊急治水対策プロジェクトチーム」を6月に設置しました。

成田地区の住民を対象に実施した意見交換会

9月には成田地区の住民を対象に意見交換会を実施し、遊水地整備に合わせてさらに居住地を守る対策（高台への集団移転や居住地の盛土）の実施可能性について協議しました。

遊水地については、秋ごろから現地の測量等が行われる予定となっていますが、現段階では正確な整備範囲等は示されていないため、町では今後、用地面積等の詳細な説明を国に求めていきます。

また、高台への集団移転は地域全体の理解が必要であることや、町単独での事業実施が困難であり、町と地域が一体となって国、県に働きかけていく必要があるため、地域住民の方々の意見や個々の事情等を丁寧に聞き、集団移転の是非や方法、時期などについて慎重に検討をしていく方針です。

堤防復旧工事 どこまで

台風による河川の増水で、阿武隈川、鈴川の堤防合わせて4か所が決壊しました。鏡石町を流れる阿武隈川は、元々は福島県管理の河川でしたが、東日本台風を契機に国管理となり、以降、国による堤防の復旧工事が進められています。

ただ、復旧工事に要する期間や、従来の堤防からどの程度強化されるのか、工事が行われる堤防の範囲はどこまで拡げられるのか、といった詳細については現段階で示されておらず、堤防付近に農地を所有する農家を中心に不安の声が聞かれています。

また、阿武隈川に合流する鈴川は福島県管理となっており、こちらも堤防の復旧工事が進められていますが、2つの河川が密接に関連していることを踏まえ、町では国と県が一体となって治水対策が進められるよう求めています。

決壊した後の阿武隈川の堤防（令和元年10月15日撮影）

仮復旧が完了した堤防（令和2年9月23日撮影）

避難時の課題 浮き彫りに

台風による水害で、成田地区では避難が遅れて家に取り残された人がいたほか、高台への移動が間に合わず、車両や農作業機械が多数水没するなど、避難方法についての課題が浮き彫りとなりました。

これらの課題を検証し、さらに新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所の運営方法等を検討するため、町では関係課職員でつくる「成田地区水害避難対策プロジェクトチーム」を7月に設置しました。会議では、今後も同様の水害が発生するという前提のもと、車両・農機具の避難場所の確保、避難所の停電や孤立対策のほか、被災想定区域内の世帯を事前に把握しておく必要があるとして、その対応を協議しました。

また、台風接近前からの国や県、町の行動計画を時系列で示した「鏡石町阿武隈川水害対応タイムライン」の作成や、住民に対し災害警戒レベルに合わせた行動を呼び掛ける「成田地区水害避難行動」を作成し成田地区に配布するなど、今後の台風への対応基準を明確にしました。

さらに、避難所のプライバシー保護と新型コロナウイルス感染症対策として、ダンボールを使ったパーテーションやベッドの導入、避難者用ボートを配備することも決め、昨年の水害を教訓とした避難のあり方、快適性と衛生面に配慮した避難所の運営について体制整備を進めています。

ボートで救助に向かう消防隊員（令和元年10月13日撮影）

町職員によるダンボールベッド・パーテーションの組み立て訓練

水害時の避難所・車両等避難場所	
避難所	鳥見山体育館（車での移動が可能な場合）
	成田保健センター（徒歩での避難や緊急時）
	老人福祉センター（支援が必要な方）
自家用車避難場所	鳥見山公園北側駐車場
農業用車両避難場所	町道成田 329 号線付近（小型のもの）
	鳥見山公園北側駐車場（大型のもの）